

2000.7.1 No.2

# 上野遺跡だより

UENO ISEKI NEWS

〒514-1138 上野遺跡発掘調査現地事務所  
三重県久居市戸木町上野6090-4 TEL 059-255-8535

久居市教育委員会  
上野遺跡調査団



第7・8地区調査地全景

# 調査概要

上野遺跡の調査は、日の出開発㈱によって進められている(仮称)久居市戸木住宅団地造成事業に伴った9地区(47,000㎡)を対象に実施しております。調査は平成11年10月より開始し、第1・4地区の調査をほぼ終えることができました。第1回目の現地説明会は平成12年4月22日に行いました。現在の調査は、平成12年3月から第8地区、同年4月から第7地区、同年6月から第2地区の調査を開始しました。

本号では、第7・8地区を中心とした概要をお知らせします。当地区は、河岸段丘の南端に位置しており、低地との比高差は約15mを測ります。第7地区では、古墳の周溝と中世を中心とした方形区画の屋敷跡が広がっていますが、第8地区では古墳時代後期から奈良・平安時代の集落跡がみられることから、両地区の性格には大きな違いがあります。

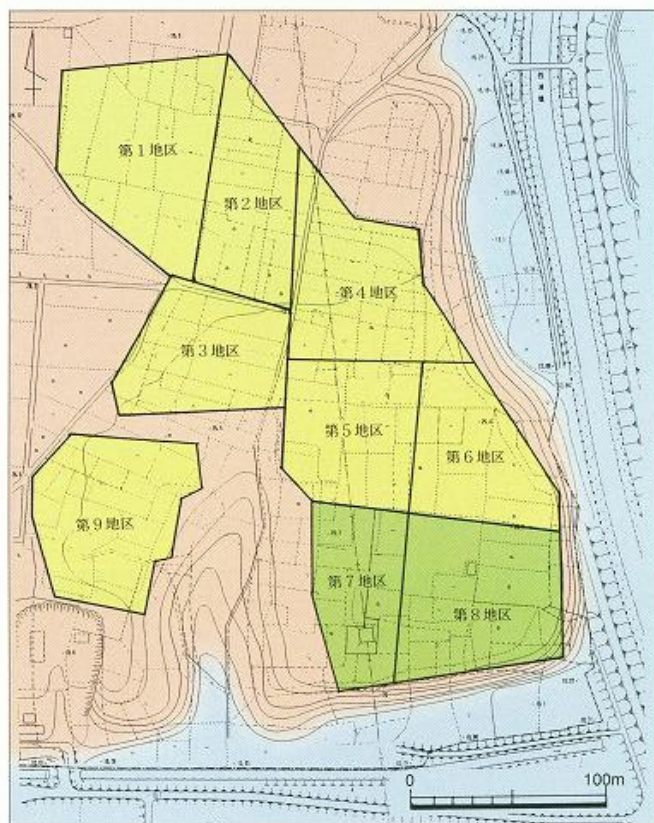


図1 上野遺跡調査図



図2 第7・8地区遺構平面図

## 第7地区の調査概要

当地区は調査地の最南端、第8地区の西側に位置します。調査成果は、大きく分けると3項目を数えることができます。第1は古墳時代後期の竪穴住居跡を検出したこと。第2は埴輪をもった古墳の周溝を検出したこと。第3は中世の方形区画溝をもった屋敷地群を検出したことが挙げられます。

竪穴住居跡は7基を検出することができましたが、第1地区で検出した円形状の並びはみられず、分散的で、規則性をもっていませんでした。構造は北側にカマド、南側及び東側に貯蔵穴状の土坑が1箇所みられましたが、模範的な4本柱は確認できませんでした。

古墳は円弧を描く周溝を1条検出できたことからその存在を明らかにすることができましたが、周溝は全周していないことから古墳の形状を明確にするまでには至りませんでした。出土遺物は土師器片・須恵器片以外に比較的多くの円筒埴輪片がみられることから、墳丘に埴輪を葺いていたことが考えられます。

中世の方形区画溝は、第4地区で検出した状況と同様であることから、第4地区の中間に位置する第5・6地区を経て第7地区まで広がっている可能性があります。方形区画は現時点では6区画を数えますが、その広がりには更に西側へ続いています。

方形区画溝内や土坑内からは、宝篋印塔ほうせきいんとうの基礎石いっせきや一石五輪塔ごりんとうが出土していることから、当地に墓地が存在していたものと考えられます。



図3 遺構検出状況



図4 一石五輪塔出土状況



図5 第7地区出土遺物 (1・2.土師器 3.土師皿 4.埴輪)

## 第8地区の調査概要

第8地区は4月から調査を行なっています。調査区域は東南隅に位置し、約4,400㎡の範囲で、見晴しの良い場所にあります。調査成果としては、幅約2m、深さ約1mの規模で二重に区画された溝が検出されました。溝の中からは、中国龍泉窯系青磁碗1片が出土し、13世紀後半から14世紀初めのものと考えられ、溝の時代もその頃と思われます。

ほかには、7世紀から10世紀にかけての竪穴住居跡17基、掘立柱建物跡11棟が検出されています。竪穴住居跡は古いものではカマドを持つ7世紀前半のものや、1辺約8.5mのプランを持つ大型のものがあります。竪穴住居跡や掘立柱建物跡の時代や性格については、今後資料整理を進めて行く上でさらに明らかかなものとなるでしょう。

第8地区の遺構は、前回の第1・4地区とは異なった様相で、中世の遺構は、L字状の大型溝以外になく、奈良から平安時代にかけての大きな掘立柱建物跡が主で、第8図に見られる庇付の掘立柱建物跡が検出されています。

また他の建物の主軸は、正確に磁北を示しています。第8地区のまとめとしては、7世紀前半頃に竪穴住居が建られるようになり、さらに平安時代頃に庇付の建物や、大きな掘形を持ち整然と並ぶ建物群が形成され、その後二重の堀を持つ防禦的な性格の区画溝が中世（13世紀後半から14世紀前半）に設置されたと考えられます。詳細については隣接する第5・6区の調査によってさらに明らかにされるでしょう。



図6 区画溝全景



図7 住居跡



図8 庇付建物跡